

(JTEF 仮訳) 野生動植物犯罪対策東京会議プログラム

国連大学, 東京
世界野生生物の日
2014年3月3日

8:30–9:15 — 参加者受付

9:15–10:30 — 基調講演／祝辞

- ・ Dr. David Malone, 国際連合 事務次長、国際連合大学 学長
- ・ Hon. Dr. Henri Djombo, コンゴ共和国 森林経済大臣 (依頼中)
- ・ Hon. Ms. Maria Mutagamba, ウガンダ 観光・野生生物・文化財大臣
- ・ Ambassador Caroline Kennedy, 駐日米国大使 (依頼中)
- ・ 御厨邦雄 (みくりや くにお), 世界税関機構 (ブリュッセル) 事務総局長
- ・ Mr. John Scanlon, ワシントン条約 (ジュネーブ) 事務局長
(ビデオ・メッセージ)
- ・ Mr. Bonaventure Ebayi, ルサカ合意タスクフォース (ナイロビ) 指揮官
- ・ 外務省 (日本)

10:30–11:40 — パネルディスカッション 1

「野生生物犯罪に対する取り組みとしての証拠にもとづく政策決定

— 国境を越えた法執行モニタリングを実現するための科学者、NGO、各国の政策決定者および国連機関の役割 —

パネリスト:

- ・ Dr. Ng Chong, 国際連合大学キャンパス・コンピューティング・センター 所長
- ・ Mr. Remi Chandran, 国際連合大学高等研究所 研究員
- ・ Dr. Robert Hoppe, トゥエント大学 (オランダ) 科学政策研究学教授
- ・ Ms. Elizabeth Mrema, 国連環境計画 環境政策実施局 副局長 (依頼中)
- ・ Hon. Ms. Maria Mutagamba, ウガンダ 観光・野生生物・文化財大臣
- ・ Mr. Vivek Menon, インド野生生物トラスト 事務局長・最高経営責任者
国際動物福祉基金 会長相談役・地域部長

11:40–11:50 — 休憩

11:50-13:00 — パネルディスカッション 2

「環境の危機における国連の役割の促進

—特にゾウ、サイおよびゴリラの密猟について—

司会進行:

- ・ Dr. Vesselin Popovski, 国際連合大学高等研究所 学術プログラム上級オフィサー

パネリスト:

- ・ Mr. Ben Janse van Rensburg, ワシントン条約（ジュネーブ）法執行支援主任
- ・ Mr. Jorge Rios, 国連薬物犯罪事務所（ウィーン）野生生物および森林プログラム主任(依頼中)
- ・ Mr. David Higgins, 国際刑事警察機構（インターポール, リヨン）環境犯罪プログラム部長
- ・ Mr. Daniel Moell, 世界税関機構（ブリュッセル）環境プログラム・マネージャー
- ・ Mr. Bonaventure Ebayi, ルサカ合意タスクフォース（ナイロビ）指揮官

13:00-14:30 — 昼食

14:30-16:00 — パネルディスカッション 3

「野生生物犯罪に対する日本における取組み」

司会進行:

井田徹治, 共同通信

パネリスト:

- ・ 環境省（日本）
- ・ 経済産業省（日本）
- ・ 外務省（日本）
- ・ 藤稿亜矢子, トラフィック・イーストアジア・ジャパン
- ・ 坂元雅行, 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金

16:00-16:15 — 休憩

16:15-18:00 — 閉会にあたってのスピーチ

- ・ Prof. Govindan Parayil, 国際連合大学副学長
- ・ 池田要, 一般財団法人リモート・センシング技術センター
- ・ Ms. Elizabeth Mrema, 国連環境計画 環境政策実施局 副局長 (依頼中)
- ・ Mr. Ben Janse van Rensburg, ワシントン条約（ジュネーブ）法執行支援主任
- ・ Mr. Peter Eredics, ESRI（カリフォルニア州レッドランド）マネージャー
- ・ Mr. Kelvin Alie, Director, 国際動物福祉基金（ワシントンDC）野生生物取引担当